

## 会議録

|              |  |
|--------------|--|
| 会議の名称        | 平成20年度 第3回西東京市子ども福祉審議会   |
| 開催日時         | 平成20年11月19日(水曜日) 13時30分 から 15時 まで  |
| 開催場所         | 田無庁舎 庁議室   |
| 出席者          | (出席者)<br>森田会長、猪原委員、梅村委員、吉瀬委員、清水委員、古川委員、阿委員<br>(欠席者)<br>栗原委員、松島委員、齋藤委員、相田委員、神山委員<br>(事務局・職員)<br>子育て支援部長 二谷、子育て支援課長 森下、保育課長 大久保、子ども家庭支援センター長 西谷、<br>事務局(子育て支援課調整係 萩原、倉本、矢部)                                  |
| 議題           | 1 答申<br>西東京市保育所入所選考基準の一部改定について(答申)<br>2 諮問<br>西東京市子育て・子育てワイワイプラン(後期計画)及び西東京市次世代育成支援行動計画(後期計画)の策定について(諮問)<br>3 審議<br>西東京市子育て・子育てワイワイプラン(後期計画)及び西東京市次世代育成支援行動計画(後期計画)の策定について<br>4 その他                        |
| 会議資料の名称      | 1 保育所入所選考基準の一部改定について(答申)写<br>2 西東京市子育て・子育てワイワイプラン(後期計画)及び西東京市次世代育成支援行動計画(後期計画)の策定について(諮問)写<br>3 西東京市次世代育成支援行動計画進捗状況【公表】<br>4 次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画の策定について【後期行動計画策定の手引き(素案)、行動計画策定指針の改正方向案】<br>5 スケジュール(案) |
| 記録方法         | 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録   |
| 会議内容         |  |
| 発言者名<br>発言内容 | 森田会長<br>第3回子ども福祉審議会を開催する。<br>《答申》 西東京市保育所入所選考基準の一部改定について(答申)<br><br>事務局  |

《諮問》西東京市子育て・子育てワイワイプラン（後期計画）及び西東京市次世代育成支援行動計画（後期計画）の策定について（諮問）

森田会長

今日の審議は、ただいま、市長から諮問があった次世代育成支援後期計画とワイワイプランの後期計画の策定について、具体的に、何をどのように審議していくのか皆さんにお諮りします。

まず、後期計画の位置関係を確認したい。西東京市の場合、ワイワイプランの後期計画と次世代育成支援行動計画の後期計画は、平成 22 年度から同時にスタートすることになっている。後期計画に関する目標事業量を算出するためのニーズ調査を今年度実施し、来年度、ニーズ調査に基づいて目標事業量の見直しを実施し、また、計画上の施策や事業を総合的に見直すことになっている。

事務局

資料「次世代育成支援行動計画進捗状況について」概要説明 平成 19 年度の進捗状況が公表になった。

資料「後期行動計画策定の手引き（素案）について」概要説明 重点目標は、主に仕事と生活の調和（ワークライフバランス）と新待機児童ゼロ作戦におかれている。

今年度は、子育て家庭等のニーズを把握するために「ニーズ調査」を実施する。実際の調査項目は、ほぼ確定しており、51 ページ以降に出てくる。また、市として、独自の調査項目を追加してもよいことになっており、これについて、ご検討をいただきたい。

資料「スケジュール（案）」について概要説明

ニーズ調査の実施は、調査対象の抽出や統計法上の届出など、急ぎ作業をすすめる。調査対象のうち、1,000 件については、調査対象等を独自に設定ができるので、これについて、ご審議をお願いしたい。

また、後期計画を策定する際、これまでの例により、市民委員を 2 名公募したいが、これについても、ご審議をお願いしたい。

あわせて、スケジュールについても、ご審議をお願いしたい。

森田会長

ニーズ調査について。前回も同様な調査を実施し、それに基づいて、ワイワイプランを策定し、ワイワイプランを次世代の前期計画につなげている。

今回のニーズ調査は、国が示している調査票をベースにつくることになる。この内容を見ると、調査項目の中に「評価」がほとんどないように見受けられる。ニーズを把握するための調査だから仕方ないのかもしれないが、今現在やっているサービスがどのように評価されているのかということも重要なことである。前回の調査から年数が経っているので、追加項目として、いろいろな項目を検討したいところではあるが、ボリュームとして、2~3 項目追加できる程度だと思う。今、この場で設問を設定することはできないので、こんなことを聞きたい、というものがあれば出していただきたい。国の考える量的なものと市の考えるサービスや質的なものを考える場合、今の事業が役に立っているのかの評価の項目の追加は必要であろう。利用している人がどのように評価しているのか、などクロスしてみるといいと思う。一番大事なのは、子どもがどう育っているかということを確認することだ。例えば、子育ての困難度や、成長発達の許容度などに対する親の意識。子どもが持っている力、何にウエイトを置いていくのかについての親の意識。小学校に入っていじめられるのではないか、ということ親はどう考えているのか、など。3 歳児神話。子育ては楽しいと思っているのか、つらいと思っているのか、というような認識を問うもの。自分の子育ての知識は、どこで教わったものが一番役に立っているのか。子育て家庭の苦しいとこと、価値についての調査項目など、いろいろと考えられるが、どうでしょうか。

鈴木主幹

ここ数年、かなり親の考え方が変わってきていると思う。現場でそのような実感がある。親の意識や考え方が 5 年前と比べてどう変わっているのか調査ができるといいと思う。

猪原委員

自由記述を設定するのはどうだろうか。まったく我々が想像しなかったような問題が上がってくるかもしれないので。違う形での評価の項目は P61 あたりに見られる。

阿委員

ここ数年、親の反応について変化が感じられる。いろいろな制度ができてきて、サービスを当然受けられるものという意識みたいなものが浸透してしまっている。

森田会長

子育て支援の質、ということだと思う。何をたずねたら判るのか。

清水委員

すこし前に、養護教諭の集まりに出たときに、保健室に逃げてくる子どもたちは、子どもではなく、親に甘えの構造があるのではないかという意見が出たり、いやそうではなくて、子どもの意見を聞く場所と人がいない、子どもをしっかり受け止めてくれる場所と人がいない、という意見がでた。教育の「育」の部分、心をはぐくむことが必要なのではないか。そういったことで、親の意識を聞いてみてもいいかも。お年寄りの集まりに出たときに、いまの親はなっていない、年長者に対する畏敬の念がない、などの意見が出た。そんなことも聞けるといいのでは。

古川委員

仕事で、就学支援制度のモデルをやっている。そこは障害に特化しているところではないが、なるべく多くの方に参加を呼びかけている。その中で、親の考え、親意識が見えてくることもあり、そういう中で意見を聞くというのもいいと思う。また、中学生の職場体験の感想文などを見ると、中学生が子どもたちを見る目、中学生が大人を見る目がわかっておもしろい。いろいろなところから意見を引き出せたら良いと思う。

梅村委員

医療の側から言うと、先日国から、出産一時金の立替えをなくすこと、妊婦検診の無料化の方針が出されたが、市の方で出産というものをどうとらえ、どういう施策としていくか考えるといいと思う。今回の調査項目には出産の部分がないので、市の施策と結びつく具体的なものが欲しい。

古川委員

妊娠してもお金がかかるので検査を受けず、臨月になり、出産ぎりぎりでも病院に駆け込む妊婦が増えているため、診療拒否のように救急対応が困難になっているというのを聞いたことがある。

梅村委員

それは現実としてある。一回の検診料が高い。異常分娩の人は病気になるので3割負担だが、正常な人は全額支払わなければならないので、そういうことも現実に起きている。最近よく耳にするのは、直前の里帰り出産を拒まれるケース。事前に診ていないので、医療機関としてもこわいのでは。産みたくても産めない、経済的な理由で産めないというのもよく耳にする。

清水委員

そういうことの対策も少子化対策のひとつだと思う。その辺りからやらないと。

森田委員長

今皆さんから出た話で、妊娠・出産・子育てという連続の中で、出産はどこでしたか、出産したときに問題はなかったか、負担感はなかったかなどはどうか。妊娠・出産・子育てという連続の中で、施策につながるような問いかけができればと思う。

古川委員

制度によって子育てが人任せになっている、ということが浮かび上がってくるようなものがあればいいと思う。

森田委員長

こういう質問項目があるといいな、というものがあれば、今月いっぱい事務局に上げて

もらいたい。

次に、後期計画策定のおおよそのスケジュールについて。8月に目標事業量を提出するために、その前に審議会として検討する。そのためにアンケートなどで基礎的なデータを出して、算定していただいて、その上で審議していく。具体的には、市民委員に審議会のメンバーに加わっていただき検討するわけですが、市民委員の位置づけは？

森下課長

子ども福祉審議会の専門委員として入っていただければと考えている。

森田委員長

市民委員の人数ですが、2名でいいかどうかについて。

猪原委員

条例策定委員の公募の際も、2名募集で2名応募だったので、2名が適当ではないか。

森田委員長

それでは、市民委員2名を公募することよろしいか。

全員

承認

森田委員長

子ども福祉審議会の中に作業部会を組織する必要性はないか？

森下課長

計画策定支援業務をコンサルタントに委託したいと考えている。その中でいろいろなことをやってもらって、節目節目で子ども福祉審議会にはかり、ご意見をいただければと考えている。

森田委員長

そのあたりのやり方については、今後、事務局と詰めていくことでいいか。

全員

承認

森田会長

来年度につきましては、ニーズ調査の結果が出てきたところで、子ども福祉審議会に適宜ご報告いただいて、計画策定に支障をきたさないようにするということになります。計画策定について子ども福祉審議会で審議する回数は、目標事業量の設定の時に1回と、グループヒアリングが終わって計画が見えてきた時つまりパブリックコメントを出す前に1回、パブリックコメントが終わった後に1回、最終案で1回、ですからおそらく4~5回程度の審議になると思われる。そこに合わせて他の議題もやるようにすると、隔月くらいにお集まりいただくことになると思います。

作業部会については事務局と詰めさせていただき、皆様に提案させていただきたい。

計画策定についての議題は終わります。

続いて、子どもの権利条例策定委員会の実施した市民まつりでの子どもヒアリングについてと子どもの権利に関するアンケート調査報告書について、事務局から報告があります。

事務局

子どもの権利に関するアンケート調査報告書について報告

市民まつりでの子どもヒアリングについて報告

以上にて終了